月刊美術　2019年12月号の
P57幸を呼ぶアートに
樋口ひろ子を
ご紹介いただきました

月刊美術 2月号

開運・吉祥・縁起物
幸を呼ぶアート

どんな時代でも、人はいつも「招福」を願うもの。そこで、開運、吉祥、招福などの象徴とされるものを題材にした作品58点を誌上販売。各モチーフの「招福」の由来もわかりやすく解説し、各作品をより深く楽しめる内容に。

09 志水堅二 《赤富士鶴図》
4F パネルにアルキド絵具、金箔
330,000円(額付)

1971年生まれ。志水作品のメインキャラであるブリキの鳥「ブリドリー」は、時間の象徴。古典の名品や伝統の意匠を自在に往来し、現代の感性とリンクさせる。本作ではそのブリドリーが鶴に。「赤富士」とともに縁起物の定番がダブルで入った、まさに「幸を呼ぶアート」!

10 泉水 《「養生訓」秘訣》
3×2.8×2.3cm 陶 60,500円(箱付)

ユルくてキュート、でも実は文学的。陶の動物たちのそんな姿がなんとも魅力的な泉水作品。本作は近年手掛ける江戸の風俗を擬人化した動物根付のひとつ。ほろ酔いで酒甕を抱える老亀が読んでいるのは『養生訓』か。「酒を飲には、各人によつてよき程の節あり。少のめば益多く、多くのめば損多し」

右から
11 樋口ひろ子 《吉祥菊》
45.5×16cm アクリル、金箔、キャンバス 104,500円

12 樋口ひろ子 《吉祥牡丹》
45.5×16cm アクリル、金箔、キャンバス 104,500円

イラストレーターとしても活躍するマルチアーティスト。その作品のテーマは一貫して「少女の永遠の幸福と成長の祈り」。掲載作でも、邪気を払う「菊」と富貴の象徴「牡丹」をそれぞれにかかげ、華麗で愛らしい吉祥図として制作。ぜひ一対で!

57